

文化資料室ニュース

創刊号 2006年10月・札幌市文化資料室発行

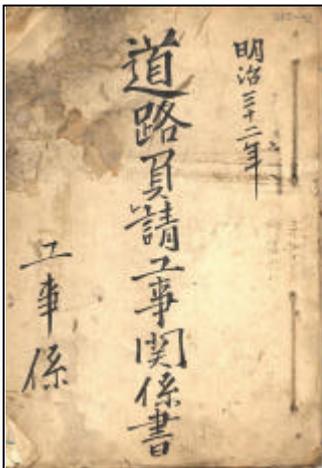
創刊のごあいさつ 札幌市文化資料室は『新札幌市史』の編さんとともに、編さん過程で収集された資料を市民の皆様への郷土史研究や生涯学習に利用して頂くための施設です。この『文化資料室ニュース』は、当室のPRや資料紹介の場として創刊しました。年4回の発行を目指して頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします！

所蔵資料紹介

明治31年の洪水復旧工事史料 『明治三十二年 道路請負工事関係書 工事

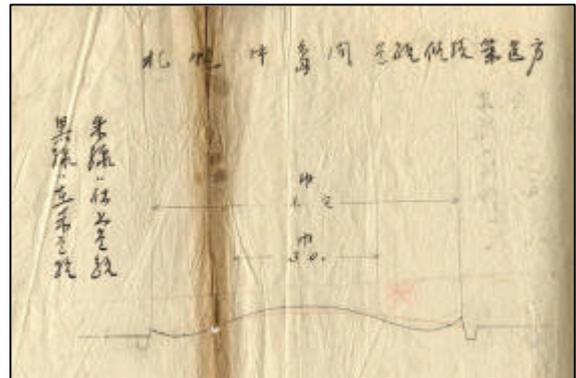
明治31年9月北海道は大雨による大洪水となった。現在の札幌市域も全市域で被害を受けた。この洪水のため篠路で順調に生産をのばしていた大根栽培が壊滅し、そして大根の産地が新琴似に移るきっかけとなったという（『新琴似兵村史』）。この災害の後、被災民の救助も兼ねて当時の石狩街道の工事が行われた。茨戸札幌間の内、琴似川に架かる中島橋（現在は、ほぼ同じ位置で創成川に架かる橋を中島橋という）を境に北側を篠路兵村が、南側を新琴似兵村が請け負った。しかし篠路兵村の工事では、責任者がうまく運営できなかったようで一部の人だけが利益を得ることになったという（『北海道毎日新聞』明治32年2月9日付）。このような被災民救助を名目とした工事については、32年7月になっても土木工事に不熟練な村総代や組合等が工事を請負ったため、実質は請負業者に下請けに出すことになり、被災民の救助にならない状況が新聞に報道されている（『北海道毎日新聞』明治32年7月8日付）。

新琴似兵村の工事については、文化資料室に



史料の表紙。

『明治三十二年 道路請負工事関係書 工事係』（仮番号SKD-23）という書類がある。それには、札幌支庁との請負契約書類、道路修繕の仕様書、工事中の人夫・馬車の数を書き留めた日誌、監督の



蒲鉾型道路を示す図面。

日当や工事賃金の支払いの領収書、諸費用の領収書などが綴られている。

契約書によると、工事名は札幌石狩間県道筋字中島以南道路水害復旧工事、請負金高は2435円17銭5厘、請負者には札幌郡琴似村182番地八木耕一郎他19名が名を連ねている。工事期間は、着手日より50日以内で、7月8日着手し8月26日成功予定であった。しかし8月25日になって9月15日までの延期願いを出している。工事の検査日記を見ると9月13日で検査を終了しているので、13日に実際は竣工したのであろう。

水濡れや破損などで不明部分があるが、仕様書によると篠路村字中島札幌間の電柱10号より75号まで道路延長2630間を工事区間とする砂利敷き工事となっている。道路の型は、在来道路にならない中心を定め鶴嘴で掘り起こしその上に下水淵にある土を掻き寄せ中心5寸の蒲鉾型に築造し、草刈りは下水淵から全部刈り取るなどとなっている。さらに積書による路面敷き均し用の二寸以下切り込み砂利1775円25銭、同砂利敷き均し用人夫394人5分177円52銭5厘、路面高低均

し及び両側下水浚渫人夫 1072人 482円 40銭で合計 2435円 7銭 5厘となっている。収支決算報告では、前記の請負金高に対し砂利運搬費など諸費用を計上し 34年 12月で残金 2円 36銭 6厘である。領収書の賃金受領者名は、新琴似屯田兵の名

前が多い。

この史料をより詳細に解説分析し、また新聞などにより洪水の救済事業等を詳細に把握できるともっと詳しいことが判明してくるだろう。

(新札幌市史編集員 榎本洋介)

郷土史相談室だより

北の甲子園

駒沢大苫小牧高校の大活躍に多くの道民が手に汗を握った夏の甲子園の余韻も冷めやらぬうち、来春の選抜大会(春の甲子園)につながる秋季全道高校野球大会が札幌市営円山、麻生の両球場で繰り広げられた。今年の優勝校は旭川南高校である。そんな折「北の甲子園」についての問い合わせがあった。甲子園といえば、多くの方は春・夏の高校野球全国大会か、阪神タイガースを思い浮かべるだろう。「北の甲子園」も野球に関連した呼び方ではないだろうか。

全国 4,100校以上による甲子園を目指す挑戦は、まず支部予選を勝ち上り地方大会に進むことから始まる。大多数の高校球児にとっては、地方大会の球場に立つことが晴れの舞台である。地方大会の球場が地区の「甲子園」と呼ばれても不思議はない。となれば「北の甲子園」は、北海道大会開催球場ということになる。事実「札幌市円山総合運動競技場 50年史 躍動の杜」に「(円山球場は)...高校球児たちにとっては、全国大会への登竜門となっていることから、『北の甲子園』として、大きな目標となっている」とある。

では、円山球場は昭和 9年にできた当初から変わらず「北の甲子園」であったのだろうか？

夏の北海道大会が南北に分離された後の北北海道地区における「北の甲子園」はどこか？

北北海道大会が円山球場で行われるようになったのは昭和 50年からである。北海道大会が南北に分離された昭和 34年から 49年までは札幌市営中島球場で行われていた(50年は中島・円山の併用)。「さっぽろ文庫 84 中島公園」によれば、「中島球場は.....、社会人野球、高校野球、大学野球、少年野球にと広く使用され、時には『北の後楽園』であり、『甲子園』であり、『神宮』として野球人からの憧れの的となった」とある。この頃の南北北海道地区の「北の甲子園」は中島球場である(分離前の 32・33年は中島・円山を併用)。31年以前は全道各地の持ち回りだったので特定はできない。



かつての「北の甲子園」札幌市営中島球場。

北北海道大会は平成 12年以降毎年旭川スタルヒン球場

で開催されており、「北の甲子園」といってよいだろう(実際にそう呼ばれてきたかどうかは未確認)。平成 11年以前は、各地持ち回りで開催されているので特定できない。

なお、秋季全道大会は昭和 23年に始まり、昭和 36年からは札幌中島球場、51年からは札幌円山球場で行われている。

甲子園への代表を決める大会の開催球場が毎年変わって特定できなくとも、その時々的高校球児にとっては、その球場が夢の舞台への第一歩であり、「北の甲子園」であったといっただろう。

(郷土史相談員 今倉迪夫)

<参考文献> 『北海道高等学校野球連盟 50年史 白球の証』(平成 9年) 『さっぽろ文庫 84 中島公園』(平成 10年)

『札幌市円山総合運動競技場 50年史 躍動の杜』(昭和 56年) 『北海道新聞縮刷版』

郷土史相談室では札幌の歴史に関するご相談等を受け付けております。お気軽にお問い合わせください！



・ 011-521-0207 (直通)

旧豊羽小中学校へ行ってきました

定山溪のさらに奥、昭和 26 年 10 月に開校した元山小学校は、豊羽鉱山で働く人々の子どもたちが通っていました。さらに中学校が昭和 27 年に石山中学校の分校として併設され、昭和 30 年に豊羽小・中学校と改称されました。その後も約 50 年間、子どもたちの成長を見守ってきた豊羽小・中学校でしたが、残念ながら平成 14 年 3 月に閉校となってしまいました。

このたび文化資料室は特別に許可を得て、豊羽小・中学校に関する歴史的資料が残っていないか、調査に行きました。そこには、学校の行事を 8mm フィルムで記録したもの、教育計画など経営資料、豊羽鉱山の生活の様子を写した写真などが残されていました。他に図書室には、文化資料室で発行した『新札幌市史』や『さっぽろ文庫』、その他にも文化資料室で活用できる書籍がありました。私たちはその日、これらの本が入った重い段ボール 5 箱を 4 階の図書室から、やっとのことで運び出しました。もちろん、階段で…。

さて、教室や廊下を利用した展示は、豊羽鉱山で採取された鉱石や生産していた製品、豊羽小・中学校を囲む山々に関する展示がありました（写真）。特に山に関しては、廊下の壁一面に位置関係と名称が描かれたイラストが貼られ、それぞれ写真、細かい情報、採取された岩石が山ごとに分類された展示がありました。とても面白く分かりやすい内容で、このまま誰の目にも触れることなく放っておくのは勿体ない…と思いつつも、巨大な展示物ですので、持ち帰ることはできませんでした。しかし、昔の写真が引き伸ばされた一部のパネルを持ち帰りました。機会があれば特別展を行い、ぜひ皆様に見て頂きたいと思います。

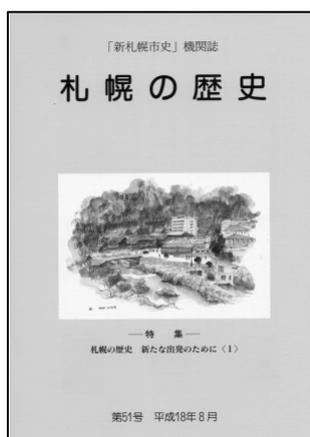


（文化資料室 中村）

新札幌市史機関誌

『札幌の歴史』

第51号を販売中です。



目次

特集 札幌の歴史 新たな出発のために 1

戦時期札幌の会社について

屯田兵の稲作願望「水田同志名簿」(明治二〇年)の顛末

札幌会議の真相について

札幌区立女子職業学校の遠足・修学旅行

史料紹介 武田家史料と白石村

『わがまち温故知新』百余年の伝統を守り、力強く次代へ受け継ぐ

～札幌市無形文化財丘珠獅子舞保存会

購入方法

文化資料室と市政刊行物コーナー（札幌市役所本庁舎 2 階）で販売中です。1部 400 円。

郵送による購入は、お問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】 文化資料室（011-521-0205） 市政刊行物コーナー（011-211-2135）

内容に関するお問い合わせは文化資料室までお願いいたします。

行事のご案内

行事を行っている間は閉館時間・日であっても、一般の方もご利用できます。

2006年 文化資料室 古文書講座

札幌歴史ゼミナール【上級コース】 札幌の歴史に関する資料をもとに各個人で研究、成果を発表するゼミ形式の講座です。

日時 1月20日(土)・2月17日(土)・3月17日(土)
14:00~16:00

場所 文化資料室内 郷土史相談室(2階)

対象 市内に居住か通勤・通学する16歳以上の、古文書が読めて、より深く歴史を学びたい方。3回連続参加が可能な方。

定員 10名(応募者多数の場合は抽選とします)

講師 榎本洋介(新札幌市史編集員)



【初級コース】【中級コース】の受付は終了しました。

❖お申し込み方法❖

往復ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号、年齢をご記入の上、下記住所までお送りください。

注)お電話での申込はお受けできません。

申込締切は12月28日必着です。

ジュニア・ウィークエンドセミナー



札幌の歴史探検～歴史新聞をつくらう!～

札幌の歴史に詳しい先生の話や、文化資料室にある写真・地図などを使って、「札幌の歴史新聞」をつくらう!

今回のテーマ **札幌と動物たち**

開催日... **2月3日(土)(1月25日しめきり)**

対象 小学校4年生~中学生
(定員 12名 応募者多数の場合は抽選とします)

場所 文化資料室内 郷土史相談室(2階)

時間 午前10時~12時30分

講師 榎本洋介(新札幌市史編集員)

❖お申し込み方法❖

官製ハガキに住所・氏名・学校名・学年・電話番号をご記入の上、下記住所までお送り下さい。
お電話でのお申し込みも受け付けております。

❖・❖・❖・❖・❖・❖・❖・❖・❖・❖

文化資料室 利用のご案内

開館時間 8:45~17:15

休館日 土・日・祝日・年末年始(12月29日から1月3日)

入館料 無料

郷土史相談室・札幌の歴史展示室がご利用になれます

ご来館の際は公共交通機関でお越しください



交通アクセス / 東豊線「豊水すすきの」駅下車6・7番出口から徒歩3分、または南北線「中島公園」駅下車1・2番

文化資料室ニュース ————— 創刊号・2006年10月(増刷:2006年11月)

発行 ——— 札幌市文化資料室 〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目

Tel・文化資料室事務室 011-521-0205・市史編集室 011-521-0206・郷土史相談室 011-521-0207

Fax・011-521-0210 E-mail・shiryoshitsu@city.sapporo.jp URL・http://www.city.sapporo.jp/bunkashiryo/